

第3回は、茨城むらまちネット初代会長の柴山進さん
(石岡市・NPO法人アグリやさと)のご紹介です！

美しい里山風景が広がる石岡市八郷地区。ここで廃校になった小学校を管理運営し、農業体験や食体験、工芸体験などを行うとともに、新規就農者の研修支援を行う「朝日里山ファーム」を管理運営しているのが、NPO法人アグリやさとさんです。

柴山さんには、茨城むらまちネットの立ち上げからこれまで、当会の運営に御尽力をいただいております。



学校単位での受入れが多い朝日里山学校。5月の田植えは8回・1,200人の来校予定でしたが、コロナの影響ですべて中止に。

一方、朝日里山ファームの研修生受入れは計画通り行っており、現在2家族が研修中です。ほかに観光イチゴで1家族、シニア世帯1家族の移住受入れ支援も行っているなど、農業を核として地域に根差した活動を続けていっしょにやります。

柴山さんからは、「会員の皆様はそれぞれ多様な活動をされていますが、観光というテーマのところが多くあると思いますので、今後のことについても情報交換をしていきましょう」とのメッセージをいただきました。

編集・発行



茨城むらまちネット事務局
(茨城県農村計画課)

TEL:029-301-4264

Email: nokan4@pref.ibaraki.lg.jp

十月から、東京が目的地となる旅行や東京に居住する方の旅行もGOTOトラベルの対象となりました。

コロナ禍においては、観光もまた、旅行者・受入側双方にこれまでと異なる配慮が必要になります。が、やっぱり、日常と違った体験をする、新鮮な気持ちになりますよね！

都市農村交流は、来訪者にとっては地域の食や農・自然の魅力を体感でき、受入側にとっては地域の持続可能性につながります。そして、何よりも、双方が人とのふれあいを楽しむ「歓交」にその意義があると思います。

コロナの影響で閉塞感のある日々が続く中、観光のあり方も見直され、近場の旅行を楽しむ「マイクローリズム」といったものも提唱されています。都市農村交流は、こうした旅行者のニーズに合致する面も多く、その価値も再認識されるのではないのでしょうか。

茨城むらまちネット
事務局から